

美術館コレクション

Art Museum Collection — 79 —



いちのちようのすけ
市野長之介 (1905-1987)

《カフェーさだ》

1930年 油彩・キャンバス

黄色い外観が目目を惹くカフェのある街角。描かれたのは昭和5年で、その当時の都会ではカフェが流行するなど、急速に街の近代化が進んでいました。本作は名古屋・栄付近のカフェと思われ、出窓風な軒先のデザインや看板の「チキンライス」の文字から、当時の流行が感じられます。市野は大正末期から名古屋で活躍した洋画家です。昭和初期のこの頃、素早い筆遣いと落ち着いた色彩で、変わりゆく地元の街並みを描きました。

問 美術館 (☎23-1636)

歴史散歩

223



松秀寺の観音堂の前に大きな灯籠があります。正面には「御宝前」、向かって右側には「天保十五甲辰歳」、左側には「当山観世音菩薩安置施主太田正入七代之孫太田平右衛門正行」とあります。観音堂には鎌倉末期の作とされる木造十二面観世音菩薩立像(市指定文化財)が安置されており、これは太田忠右衛門長正が延宝4年(1676)に奉安したといわれています。太田長正の子孫にあたる正行が先祖の寄進を記念して灯籠を寄進したことがわかります。なお、太田正行の奉納した灯籠は市原稲荷神社の本殿前にもあります。

松秀寺の灯籠

(銀座2丁目)

かりやの風景 187

菜の花畑を泳ぐ鯉のぼり(高須町)

フローラルガーデンよさみの東側の菜の花畑に、約60匹の鯉のぼりが悠然と泳いでいます。これは、公園を訪れる人を楽しんでもらおうと、高須地区営農改善組合が遊休農地活用の取組のひとつとして毎年行っているものです。

鯉のぼりは5月6日(日)まで、月曜日と雨天を除き、毎日飾られています。また、この農地には菜の花のほかにも、季節に合わせてひまわりやコスモスなどが植えられる予定ですので、これからは季節の訪れを華やかに知らせてくれそうです。

